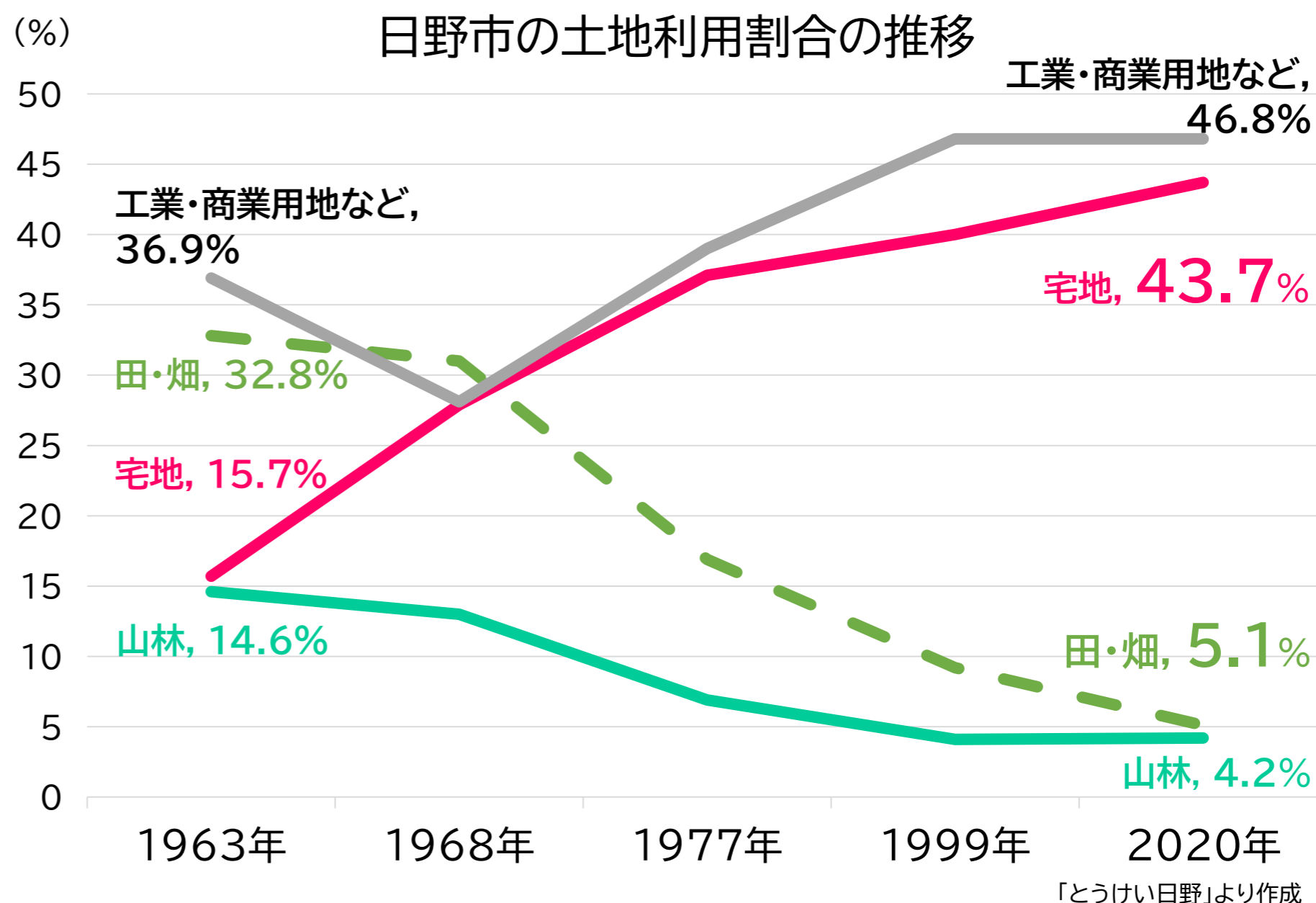


# 環境の変化

## 土地の利用の変化

日野市では1930年代に工場誘致を進め、大規模工場の開設が相次ぎました。その後の急速な都市化で増加した人口に対応するため、農林地が宅地として使われるようになりました。

現在では、市の約半分が住宅街となっています。



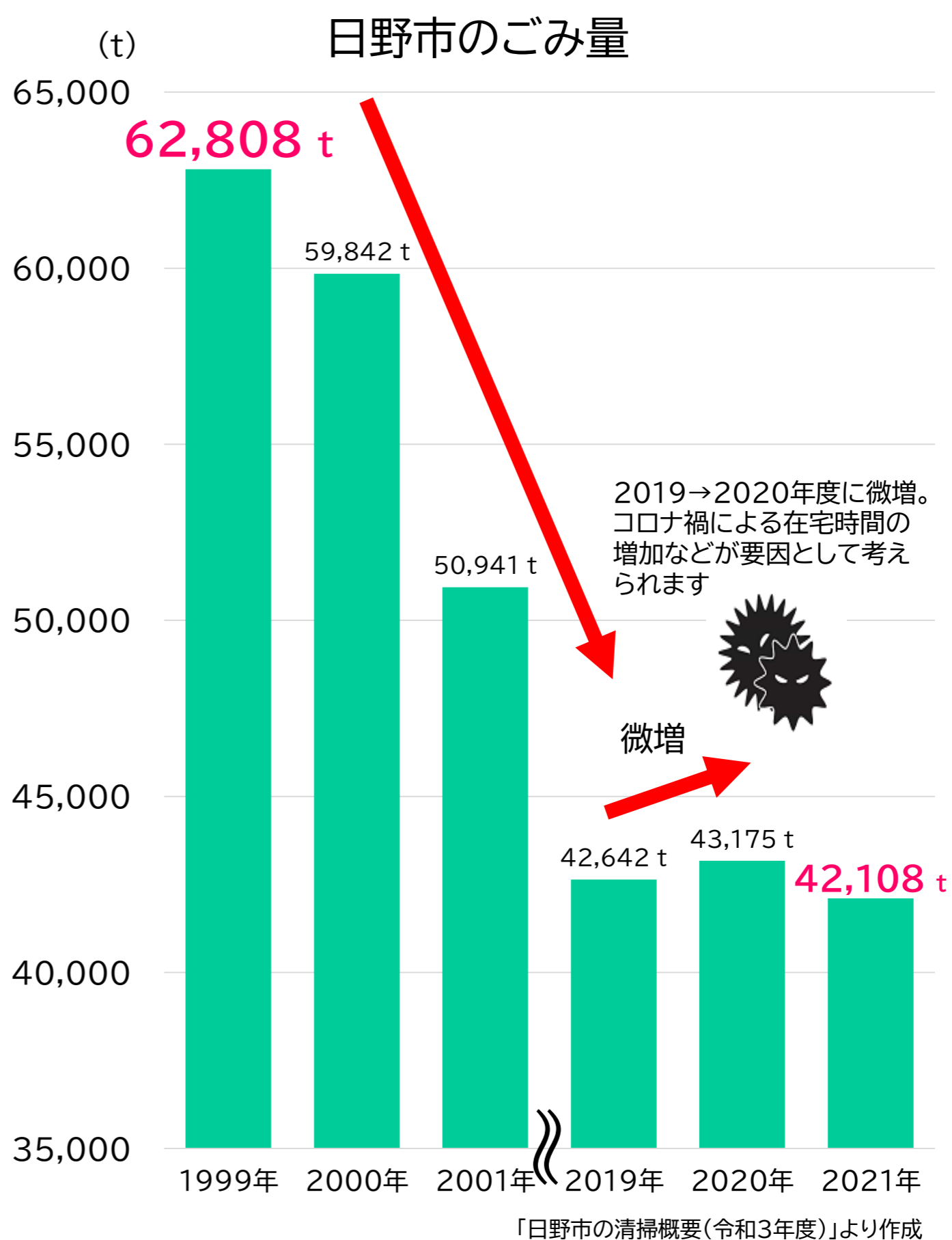
## ごみの排出量

1995年、日野市の不燃ごみの排出量とリサイクル率は多摩地域ワースト1位でした。



当時は「24時間いつでも何でも出せる」ごみ集積場(ダストボックス)があり、便利さの反面、分別されずに捨てられるごみが日常の風景でした。

しかし、ごみ改革と銘打ち戸別収集・ごみ袋有料化へ変更後は分別の意識が高まり、2021年度にはごみの少ない自治体 全国2位(人口規模別)となりました。



# ■ 経済の変化

## ■ 産業構造の変化

市内で働く方の**40%以上**が大規模事業所に勤務しています。大企業の工場撤退が続いていますが、それでも周りの市と比べても、大規模事業所で働く人が多い状況です。

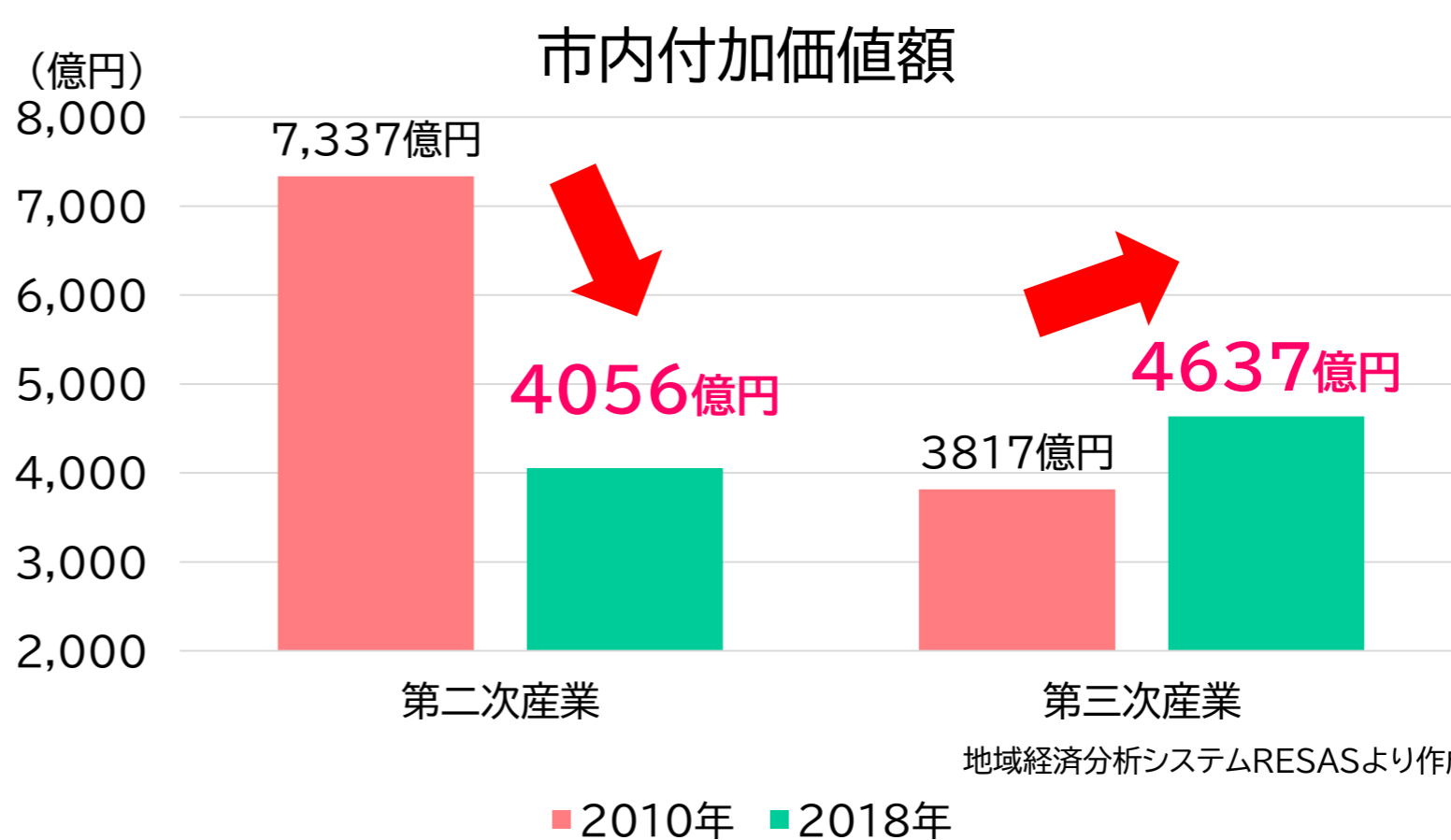
自治体別 大規模事業所従業者数 ※大規模事業所=従業員数100人以上

	全従業者数	大規模事業所の従業者数	割合
日野市	56,826人	23,353人	<b>41.1%</b>
八王子市	215,748人	64,544人	29.9%
立川市	112,294人	38,188人	34.0%
府中市	103,113人	42,672人	41.4%
多摩市	60,945人	25,233人	41.4%
昭島市	44,496人	15,614人	35.1%
羽村市	24,859人	9,436人	38.0%

平成28年経済センサスより作成

ただし、第二次産業(工業)の付加価値額は**8年間で約3,000億円**減っています。一方で第三次産業(サービス業)は増加しています。

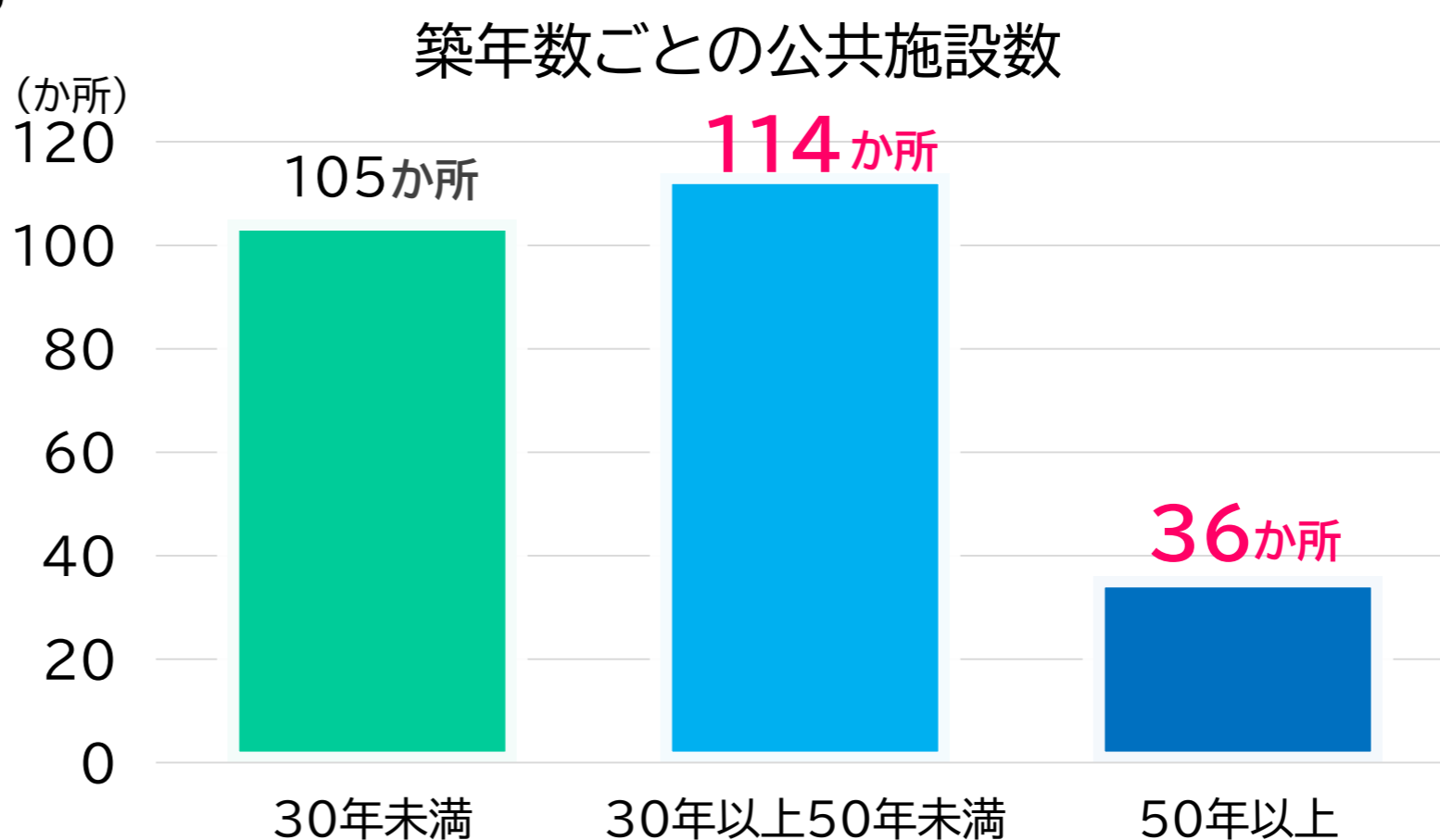
※付加価値額とは、生産額から材料費などを除いた額のこと、日野市で付け加わった価値の金額です。



## ■ 建物・まちの老朽化

日野市には、2015年時点で255の公共施設があります。そのうち**約60%が、築年数30年以上**です。

すべての建物を新しくすると、今後30年間で2,583億円必要という試算が出ています。



「日野市公共施設等総合管理計画」(2017年3月)より作成

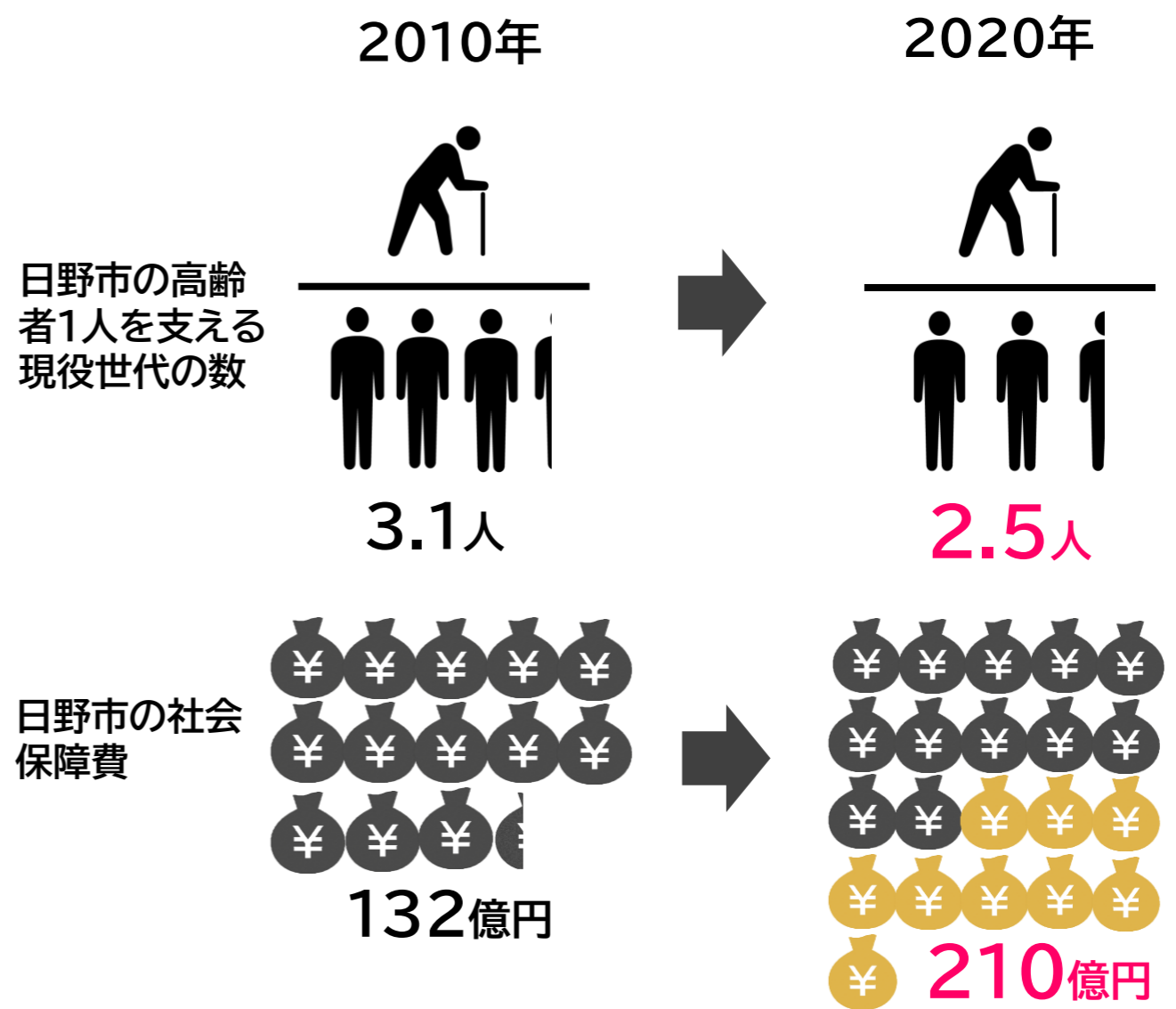
# 社会の変化

## 社会の担い手の構造変化

日野市の1人の高齢世代(65歳以上)を支える現役世代(15歳~64歳)の人数は、**10年間で3.1人から2.5人**に減りました。

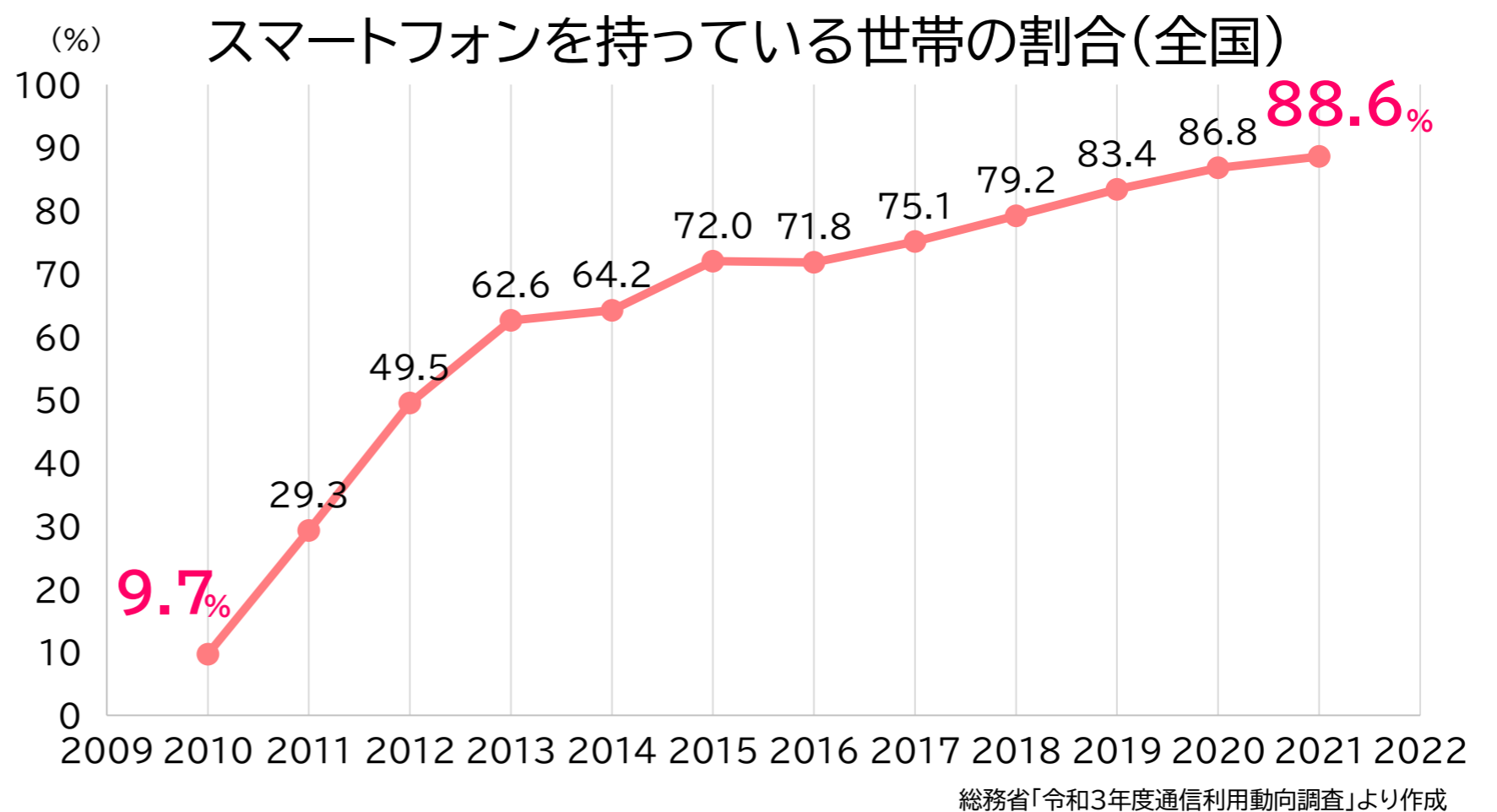
日野市の社会保障費(扶助費)は、**10年間で約1.5倍**、金額にして70億円増えました。

※社会保障費とは、高齢、病気、失業などにより生活が困難な人に対して、使われるお金のことです。



## スマートフォンの普及

スマートフォンは登場から10年程度で90%近い世帯に普及しました。それに伴い、情報収集、情報の発信を**自分1人でいつでも、どこでも**できるようになりました。



## テレワークの広がり

コロナ禍により、テレワークが急速に広がり、今では**約半数の人が、テレワークの活用に積極的**です。

